

# 在外教育施設派遣報告

## (シンガポール日本人学校中学部)

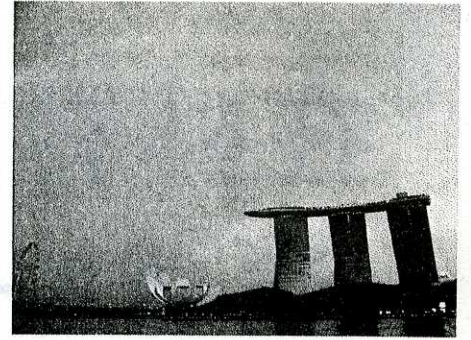


朝霞市立朝霞第一中学校 藤川 潤子

(2009年4月～2012年3月 シンガポール日本人学校中学部勤務)

## 1. はじめに

私は、2009年4月から2012年3月まで、シンガポール日本人学校中学部に勤務した。海外で学ぶ日本人生徒に、私にできる教育活動を精いっぱい実践したいと、かねてからの希望であった在外教育施設派遣を志願した。派遣先は、アジアにおいて目覚ましい発展を遂げる国、シンガポール。この3年間で、日本全国、そして世界中から集まった日本人生徒と出会った。そして多くの先生方に出会い、力を合わせ、心を通わせながら日々の教育活動に取り組むことができた。また、シンガポールにおける生活は、日本では得られないことのない、新しい価値観や視点を私に与えてくれた。ここまでの教員生活の中で、価値ある時間を過ごすことができたと思う。以下にシンガポール日本人学校中学部での教育活動と、シンガポールの生活について報告したいと思う。

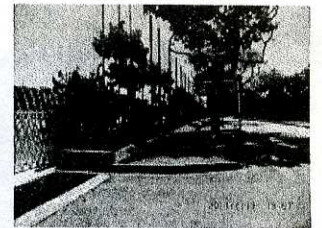


## 2. シンガポール日本人学校中学部での教育活動

### ①シンガポール日本人学校中学部紹介

まず、シンガポール日本人学校中学部について簡単に紹介したいと思う。

平成24年度現在のシンガポール日本人学校中学部は、創立42年目。全校生徒437名、教員37名、そしてローカルスタッフとして、事務職員・警備員・技術員等が配置されている。「チーム SJSS(Singapore Japanese Secondary School)」を合言葉に、安全で居心地の良い活気ある学校づくり、生徒の自主・自立と進路実現にチーム一丸となって、全力で教育活動に取り組んでいる。学校の特色を以下に挙げる。



- 日本の学習指導要領に基づいた教育課程による教育
- 教員の多くが日本から派遣された教員で、日本の教育方法を取り入れた教育
- Native English Speaker による Immersion 教育の手法を取り入れた実技4教科の指導
- 小人数習熟度別学習、ティームティーチングによる学習など、きめ細やかな英語学習指導
- 現地校との交流などの国際理解教育
- 地域講師を招聘しての進路学習、職業体験学習等を中心としたキャリア教育

### ②教育活動について

#### 【1年目(2009年)】

赴任1年目は、校務分掌が3年進路指導担当となり、在外教育施設での進路指導とは一体どんなものなのか、不安を抱えながらのスタートとなった。前年度担当者から話を聞いたり、膨大な資料を見たりして、1年間をどのようなスケジュールで進路事務を進めたらいいのか、何度も確認し、頭に入れようと努めた。年度当初から日本各地の高校から、来星して学校説明会を開催してほしいとメールで連絡が入った。実際にたくさんの高校の先生方とお会いする機会があった。各校の先生方から、帰国子女生徒への期待、国際理解教育への意気込み等、貴重な話を伺うことができた。

2学期には帰国子女受験が始まるため、夏季休業中には調査書を完成させるように、担任と連携を取りながら作業を進めた。そして怒涛の2学期のスタート、早速9月に出願の学校があり、準備に追われた。私自身は、ここまで進路指導担当の経験はなく、何をすることも未知のことばかりで、常に不安だった。有り難かったのは、学年の先生方のサポートであった。担任の先生方には、頼んだことに正確に対応していただき、副担任の先生方はコンピューター処理に力を貸してくださった。

シンガポールには、早稲田渋谷シンガポール校という、アジアで唯一、日本の高等教育課程を持つ学校がある。中学部の卒業生の4割程度はここへ進学する。12月の入試に向けて、早稲田渋谷シンガポール校とも連携を取りながら、進路事務を進めた。

生徒の志望校が確定し、年明けの帰国受験に備えて、11月末から膨大な量の私立高校向けの調査書作成に入った。出願書類に不備があってはいけないので、要項を熟読するのだが、それでも不安な点があり、逐一、日本の高校に国際電話をかける日々が始まった。また、入試相談も当然のことながら、すべて国際電話で行った。シンガポールが祝日で、日本が平日のときには、朝から国際電話をかけ続けた。

